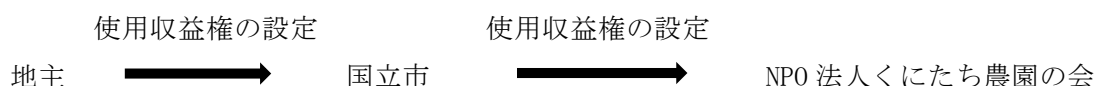


都市農業の可能性を広げるー「くにたちはたけんぼ」の新展開

伊藤久雄（認定NPO法人まちぼっと理事）

さる5月8日、府中かんきょう市民の会（都市農地・農業保全研究会）のメンバー8人で「くにたちはたけんぼ」を見学し、この農園を運営している小野淳さん（NPO法人くにたち農園の会理事長）からお話を聞いた。

この農園は約300坪の宅地化農地で、特定農地貸付法にもとづき、次の手続きで貸付けを受けている。



<特定農地貸付法>

http://www.maff.go.jp/j/nousin/nougyou/simin_noen/s_kaisetu/pdf/26_tokutei_hou.pdf

■ 「くにたちはたけんぼ」のテーマ

まちの中の田畑（はたけんぼ）と古民家（つちのこや）ができること

田んぼや畑に足を踏み入れたことはありますか？誰でも楽しくおおらかな気持ちで過ごし、学ぶこともできる田んぼや畑。そんな里山風景がここ、東京都国立市谷保には残っています。私たちは、古民家を田畑とつなげ、子育てを支援するコミュニティスペースとして活用しています。

ビルやマンションなど近代的な住居が多い中で、日本の昔ながらの庭や縁側のある古民家には、日本人が大切にしてきた「伝統」と「文化」、「ていねいな暮らし」の知恵があります。日本の春夏秋冬の季節の移ろいを五感で感じ、日々の暮らしをより豊かに、未来へつなげましょう。

- ☆ ふれあい
- ☆ いばしょ
- ☆ みんなで子育て
- ☆ 防災
- ☆ まなびや
- ☆ 地域の力と連携
- ☆ 都市農業 と子育て支援の新しい力

■ 「くにたちはたけんぼ」の都市農地活用モデル



具体的には、以下のように活用されている。

<http://hatakenbo.org/kunitachinouen>

- 貸し農園（1区画8坪） 13区画
企業や団体を対象に収穫体験や食育、交流や研修の場として畑をお貸します。
【年間利用料】60,000円 有料で管理の手伝いも可
- 田んぼ会員（定員40組）
もみまき、田植え、稲刈り、収穫祭まで、稲の成長をご家族で体験できるプログラム。
- オープンデイ（どなたでもお越しいただける開放日）
【活動日】土曜不定期開催、11:00-14:00
【参加費】100円（3歳以下無料）
- 田畑とつながる子育て古民家 つちのこや
「つちのこや」は国立市谷保の甲州街道沿いにある「やぼろじ」の母屋で行われる子育て支援プロジェクト。「やぼろじ」は、江戸時代から続く旧家「本田家」の敷地にある空き家を改築したシェアオフィス&コミュニティスペースで、月～土曜日まで日替わりの食堂や親子で過ごせる場所を提供している。
- 森のようちえん 谷保のそらっこ
【活動日】月1～2回開催（平日10:00-13:00）
【対象】0、1、2歳の親子、妊婦さん
【参加費】2,000円/1回（ミニランチ、おやつ付き）
- 放課後クラブ ニコニコ

【活動日】 毎週 月・木曜日 14:30-17:30

【対象】 小学校1～6年生

【会費】 都度参加1000円/回、週1参加3000円/月（月曜日または木曜日、曜日固定）、週2参加6000円/月

- くにとち馬飼舎 リトルホースとふれあう会
リトルホースの“ジャックとダンディ”。暮らしのそばで馬と親しむ、楽しさと豊かさを皆様お届。出張ふれあいサービス（小学校、保育園など）

【活動日】 毎月第3日曜

①10:30-11:30 未就学児/1,000円

②14:30-15:30 小学生/1,500円

- 取材・撮影・イベント協力

以上のような活用、活動を通して、昨年度は年間約 7,000 人が利用している。これは大変な規模である。

■ 「くにとちはたけんぼ」の沿革



ジャック&ダンディ

- ・平成 23 年 国立市「農業・農地を活かしたまちづくり」事業協議会にて、農地が持つ文化的、教育的価値や公共性を、広く市民に理解してもらうための実践の場の必要性を感じ、新しい農園モデル確立への模索を始める。
- ・平成 24 年 任意団体「くにとち市民協働型農園の会」を立ち上げ、翌年、国立市と地主さんと三者で協定を結び、閉園した梨園跡地に「くにとち はたけんぼ」を開園。
- ・平成 25 年～ 「畑を居場所に」をテーマに、農水省の「農ある暮らしづくり交付金」を

得て、施設整備や田畑とつながる子育て支援事業を開始。農園での「森のようちえん」や「放課後の子ども達の居場所（学童クラブ）」、リトルハウスとのふれあい事業「くにたち馬飼舎」、親子が楽しめるさまざまな農園イベントを実施。

- ・平成 26 年「くにたちはたけんぼ」を移転（現在地）
- ・平成 28 年 12 月、任意団体から特定非営利活動法人へ。
- ・平成 29 年 1 月、地域での子育て支援をさらに充実させるため、古民家（シェアスペース「やぼろじ」）の和室を借り、「田畑とつながる子育て古民家 つちのこや」を開始。

12 月、公益社団法人 程ヶ谷基金「平成 29 年度 男女共同参画・少子化関連顕彰事業 活動賞」を受賞。

■ 「くんたちはたけんぼ」の可能性

① 都市農業の可能性を広げる

「くんたちはたけんぼ」は、「くにたちはたけんぼ」のテーマの中の「都市農業 と子育て支援の新しい力」で、次のように述べている。

▽ ▽ ▽

2015 年「都市農業振興基本法」が施行され、都市農業は農家だけではなく、都市で暮らすすべての人々にとって必要不可欠なものと認められました。世界のあちこちで都市農業・都市農地を活かした取り組みがはじまっています。

また、2016 年には「地域の子育て支援の充実」についても新制度が確立。わたしたちは国や行政とも協力・連携し、都市農業の可能性を広げ、価値を高め、「都市農業」と「子育て支援」の新しいカタチを実践、発信していきます。

△ △ △

「くんたちはたけんぼ」はその実践を通して、まさに都市農業の可能性を広げ、価値を高める活動を展開している。

② 都市農業の新しいモデルを提示

代表の小野さんは実は農業者ではない。つまり自身で農業をやっているわけではない。大学は農学部でも、農業に関連する学部でもなかったということである。いくつかの転職を経て、株式会社農天氣を設立し、さらに先述のように NPO 法人くにたち農園の会の理事長でもある。

小野さんのお話を聞いて考えさせられたのは、都市農業をビジネスモデルとしても考えているということである。NPO 法人としては、300 坪の土地の借地料をきちんと払い、1

年間で約 7,000 人の利用者の参加を得て、「業」として成立させている。また株式会社農天気は、そのホームページの「自社特徴」で次のように述べている。

▽ ▽ ▽

東京国立市の農園「くにたち はたけんぼ」を拠点に多様な農サービスを提供しています。従来の農業生産はあくまでも「モノ」を生産物とすることを指していましたが、(株)農天気では畑という空間・そこで過ごす時間、体験をも農業生産物と捉えています。

具体的には畑を会場とした婚活・忍者体験・ハラル対応 BBQ など、従来「農体験」のカテゴリーに入らなかったコンテンツを開発しています。

△ △ △

「畑という空間・そこで過ごす時間、体験をも農業生産物と捉える」という発想は従来にはなかったことだと思う。今後の展開の一層注目していきたいと考える。

なお、小野さんは 5 月末に新しい著作を刊行する。ぜひ手に取って読まれることをお薦めする。

◇ 「東京農業クリエイターズ」(イカロス出版) 5 月末刊行予定

◇ 株式会社農天気ホームページ

<https://eiicon.net/companies/432>